第２章　中央市の概要

１　位置と地勢

（１）位置

平成１８年２月２０日旧玉穂町、旧田富町、旧豊富村が合併し中央市が誕生しました。中央市は山梨県の中央南部に位置しています。東は鎌田川を挟んで甲府市（旧中道町）に、北はＪR身延線、昭和バイパスを境に昭和町に、西は釜無川を挟んで南アルプス市に、南は市川三郷町に接しています。釜無川により形成された沖積平野の平野部と、御坂山系からなる山間部との二つの地理的特性を持っており、両地域は笛吹川によって隔てられています。平野部は玉穂・田富の２地区が笛吹川と釜無川に挟まれた形で位置しており、豊富地区は山間部に広がる地域となっています。

（２）面積

玉穂地区が8.22k㎡、田富地区が10.09ｋ㎡、豊富地区が13.50k㎡、合計31.81ｋ㎡となります。土地の利用状況は、平成15年度段階では宅地が19.4%、農地が36.5%、山林が16.4%、その他27.7%であり、農地の占める割合が高くなっています。

２　人口と世帯

中央市の平成12年の国勢調査（資料１）の人口は30,769人で、10年前の平成2年の国勢調査と比べますと18.9%の伸びとなっています。しかし平成18年では30,123人で、近年は伸びがゆるやかになっています。

世帯数は平成18年で10,998世帯となっており、1世帯あたりの人員は2.7人で、核家族化の進行が顕著に見られます。

転入者の数は平成18年で2,300人で、住宅地の造成、借家の増加、地理的条件などにより今後も増加が見込まれます。また外国人の登録者数も相当数増えると想定されます。

年齢別人口の構成比（資料２）を見ますと、平成18年の国勢調査では年少人口（0－14歳）15.9%生産年齢人口（15－64歳）67.8%、老年人口（65歳以上）16.3%となっており、山梨県全体の年齢別構成比と比較すると生産年齢人口の割合が高く、比較的若い年齢の多い地域といえます。

人口と世帯数の推移（単位：人、世帯、％）

（資料１）

	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
総人口（人）	16,812	21,984	25,868	28,543	30,769	31,650
増加率（％）	—	30.8	17.7	10.3	7.8	7.8
一世帯あたりの人員（人）	3.8	3.4	3.2	3	2.8	2.7

資料：昭和55年～平成１７年国勢調査

人口動態（単位：人）

毎年１０月１日時点の常在人口から

		平成１４年	平成１５年	平成１６年	平成１７年	平成１８年
総人口		30,091	30,085	29,932	30,063	30,123
世帯数		10,590	10,608	10,645	10,827	10,988
世帯あたりの人員		2.84	2.84	2.81	2.78	2.74
出生	外国人を含む（年度）	362	353	312	337	298
死亡	外国人を含む（年度）	179	184	174	204	206
転入	外国人を含む（年度）	859（旧田富資料なし）	1,619	1,583	2,226	2,302
転出	外国人を含む（年度）	863（旧田富資料なし）	1,850	1,699	2,185	2,357

	平成１４年	平成１５年	平成１６年	平成１７年	平成１８年
外国人	1,780	1,892	2,095	2,188	2,226
総人口に占める外国人割合	5.9%	6.3%	7.0%	7.3%	7.4%

年齢3区分別人口の推移 (単位：人)

区　分	昭和55年		昭和60年		平成2年		平成7年	
	数	%	数	%	数	%	数	%
総人口	16,812	100	21,984	100	25,868	100	28,543	100
年少人口0-14歳	4,266	25.4	5,462	24.8	5,844	22.6	5,654	19.8
生産年齢15-64歳	10,820	64.4	14,388	65.5	17,443	67.4	19,710	69.1
老年人口65歳以上	1,722	10.2	2,134	9.7	2,577	10.0	3,175	11.1
分類不能	4	0.0	0	0.0	4	0.0	4	0.0

区　分	平成12年		平成17年		平成18年	
	数	%	数	%	数	%
総人口	30,769	100	31,650	100	30,123	100
年少人口0-14歳	5,531	18.0	5,144	16.2	4,801	15.9
生産年齢15-64歳	21,274	69.1	21,741	68.7	20,423	67.8
老年人口65歳以上	3,959	12.9	4,765	15.1	4,899	16.3
分類不能	5	0.0	0	0.0	0	0.0

資料：昭和55年～平成17年　国勢調査　　資料：10月1日現在の常在人口より

産業別就業者人口の推移

区　分	昭和55年		昭和60年		平成2年		平成7年	
	数	%	数	%	数	%	数	%
就業者	8,429	100	10,997	100	13,215	100	15,042	100
第1次産業	2,469	29.3	2,188	19.9	1,721	13.0	1,468	9.8
第2次産業	2,563	30.4	3,852	35.0	5,057	38.3	5,816	38.7
第3次産業	3,388	40.2	4,931	44.8	6,419	48.6	7,753	51.5
分類不能	9	0.1	26	0.3	18	0.1	5	0.0

区　分	平成12年		平成17年	
	数	%	数	%
就業者	16,451	100	16,523	100
第1次産業	1,436	8.7	1,396	8.5
第2次産業	6,251	38.0	5,575	33.7
第3次産業	8,738	53.1	9,420	57.0
分類不能	26	0.2	132	0.8

資料：昭和55年～平成17年国勢調査